

議員提出議案第3号

日本映画への字幕付与に関する意見書

上記の議案を提出します。

平成20年3月21日

中野区議会議長 市川 みのる 殿

提出者	中野区議会議員	齊藤 金造
		平山 英明
		伊藤 正信
		長沢 和彦
		山崎 芳夫
		飯島 謹一

日本映画への字幕付与に関する意見書

現在、テレビの字幕付与化は、郵政省の作成した指針や予算的な補助によって急速に普及し、字幕付与可能な番組のほぼ100%に字幕がつくという状況になりました。

一方、国内各地で上映されている映画のうち「洋画」についてはほとんど日本語の字幕がついていますが、「邦画」には特別なものを除いて日本語字幕が付いていないのが現実です。日本人が見ることを前提にしているのですが、日本人でも、聴覚障害者は字幕のない邦画は楽しむことができません。

昨年、女優の菊地凛子さんがアカデミー賞にノミネートされたことで、「バベル」というアメリカ映画が話題になりました。この映画には、約400人の聴覚障害者がエキストラとして参加しました。その中に、日本のろう者の物語部分がありましたが、日本語部分には字幕がないため、聴覚障害者のストーリー部分を聴覚障害者自身が理解できないという矛盾が生じ、聴覚障害者有志による署名運動等の働きかけが配給会社を動かし、日本語音声に字幕のついた上映が実現しました。

テレビの例でもわかるように、字幕スーパー付与は、聴覚障害者にとってだけでなく、いずれは「耳が遠くなる」聴覚障害者予備軍である健聴者にとっても、「情報バリアフリーの実現」という意味で、大変重要なことといえます。

さらに、聴覚障害者が日本映画を楽しむためには、音声情報の文字視覚化が必要で、台詞だけでなく、電話の音、ドアが開く音、鳥のさえずり、車などの警笛、機器類などの警報音等、画面に現れない「音」の様子を説明する字幕も必要です。これらを一般化し、誰にでも理解できるようにするためには、文字の大きさ、色、背景とのバランス、要約の程度、表示時間、読みやすさ等に配慮した字幕について、統一した規格・規定が必要です。

そのためには、テレビの場合と同様に、映画でも、字幕付与等情報バリアフリー化を進める財政的支援措置を講じることが必要です。更に、今後益々増えることが予想されるDVDによる映像ソフトにも、字幕付与化の義務付けが必要です。

以上に鑑み、中野区議会は、国会及び政府に対し、下記の事項について、特段の措置を講じるよう強く求めます。

記

- 1 日本映画の情報バリアフリーの実現のため、ガイドラインを作成すること。
- 2 映画の情報バリアフリー化を援助する、財政支援措置を実施すること。
- 3 市販の映画ソフトコンテンツの字幕付与義務付けを実施すること。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出します。

年 月 日

衆 議 院 議 長
参 議 院 議 長
内 閣 総 理 大 臣
総 務 大 臣 あて
財 務 大 臣
文 部 科 学 大 臣
厚 生 労 働 大 臣
経 済 産 業 大 臣

中野区議会議長名